

歌仙 『業忘れめや』の巻

捌 真奈

- 発句 過ぎ行きて業忘れめやこの春の
重陽 三春
- 脇 瓦礫に一樹ひかる芽吹きよ
真奈 仲春
- 第三 斑雪野へ救助に向かふ医師ありて
丹仙 三春
- 四 鬚も剃らずに続く奮闘
笑 雑
- 五 見上げればことに優しきけふの月
茉莉花 仲秋
- 六 地酒利酒杯もとりどり
敦子 晩秋
- ウ
- 一 ふるさとの真つ赤に熟す林檎の香
悦子 晩秋
- 二 はしご外され庫裏でしくしく
シナモン 雑
- 三 面影に胸騒ぐなり疼くなり
梶 雑
- 四 アルバム古き剥ぎし痕あり
重陽 雑
- 五 賭けてみよ残余のリスクも恋なれば
真奈 雑
- 六 消せぬ劫火は想定の外
丹仙 雑
- 七 仏法僧月の夜を鳴く森深み
笑 三夏
- 八 葦の屏風を抜けるそよ風
茉莉花 三夏
- 九 鍵しまふしきりの多き旅靴
敦子 雑
- 十 どのドア開ける悩むアリスよ
悦子 雑
- 十一 みちのくに城残りたり花の雲
シナモン 晩春
- 十二 たたなはる山かをる若草
梶 晩春
- ナオ
- 一 坦々の日々を思ひて暮れ遅し
重陽 三春
- 二 老いたる獯もリセットの夢
真奈 雑
- 三 フクシマを福島とせむエンゲルス
丹仙 雑
- 四 自然法爾の大きてのひら
笑 雑
- 五 取り分けて融通の利く葱鮪鍋
茉莉花 三冬
- 六 子育て中の雪女郎らし
敦子 晩冬
- 七 久々に鏡を出して紅をひく
悦子 雑
- 八 抜衣紋して呉るながし目
シナモン 雑
- 九 名にし負ふ手練手管を擲ちて
梶 雑
- 十 蒲はお魚もここは方便
重陽 雑
- 十一 土下座する男のうへに月高く
丹仙 三秋
- 十二 オンブラ・マイ・フ沁むるやや寒
茉莉花 晩秋
- ナウ
- 一 遠けれどあれはひよんの実吹ける音
笑 晩秋
- 二 濃い目に入れてプーアル茶飲む
悦子 雑
- 三 おとなりもそのお隣も助け合ひ
敦子 雑
- 四 紙といふ紙千羽鶴へと
梶 雑
- 五 モノクロの心和むる花の色
重陽 晩春
- 六 風やはらかに笑ふをさな児
シナモン 三春

起首 平成二十三年四月二〇日
満尾 平成二十三年六月 八日